

5 環境・都市

緑の映える快適なまち



まちなかの資源を生かして
賑わいを再生

◎ 中心市街地活性化

地元機運が高まっている銀天街L字地区、一番町一丁目・歩行町一丁目地区の再開発事業を支援しています。行政・地元・民間が連携しながら再開発事業を進め、魅力的な都市機能の強化、コンパクトシティの推進を図ります。

また、まちなかの利便性と回遊性の向上、賑わいのある都市空間の創出のため、誰でも自由に利用できるフリースペース「もぶるテラス」や芝生広場と土管が特徴的な「みんなのひろば」を整備しました。大学と連携して運営し、子どもから高齢者まで、まちなかの居場所として親しまれています。

このように、本市ではまちなかの資源を生かしながら、公民学が連携してまちづくり



子どもたちが思い思いに楽しむ「みんなのひろば」

に取り組んでいます。

50万都市にふさわしい
都市基盤の整備

◎ JR松山駅周辺整備



JR松山駅周辺整備イメージ

JR松山駅を中心に行われている「松山駅周辺整備事業」。約2・4^{km}にわたるJR予讃線の高架化にあわせて、50万都市の玄関口にふさわしい駅周辺の整備に取り組んでいます。具体的には、高架化により鉄道で分断されている東西市街地のアクセスが向上し、土地区画整備事業により幹線道路や公園を整備することで、防災力強化にもつながります。

さらに、高架下をくぐり松山西環状線まで路面電車を約700^m延伸させる計画で、市街地の均衡ある発展に期待がかかります。

さらなるごみの減量・

リサイクルの促進

◎ 食品ロス削減の取り組み

会食時、最初の30分と最後の10分は、自分の席で料理を楽しみましょうという「3010（さんまるいちまる）運動」を推進して

います。この運動を広め、食品ロスを削減すること、ごみの減量につなげていきます。

◎ 松山方式による塩類リサイクル

平成29年4月から、横谷埋立センターの水処理で発生する塩類を原料に消毒剤（エコ次亜）を製造し、下水処理場での処理水の消毒に使用しています。これら一連の塩類リサイクルシステムは、日本初の取り組みで松山方式と呼ばれています。



横谷埋立センター エコ次亜生成施設

ここが いい、加減。

松山人が語る幸せの種



マルチクリエイター
ミズモトアキラさん

まちも農作物と同じように
土地に合う実を結ぶことが大切

私はUターンで松山市に帰ってきました。帰郷のきっかけの一つは、2011年に開催された中心商店街活性化イベントに出演したこと。その際、松山のまちづくりに取り組む人々と出会い、新しい流れができていることを実感。「このまちは楽しくなりそうだな」と思ったことが後押しになりました。まちの未来を考えたとき、私たちはつつい他所の土地の成功例をお手本にしがち。でもまちも農作物と同じで、松山という土壌にあった取り組みがあるはず。たとえば、松山の昔を手本に、新たなにぎわいを育てていくのもいいと思います。